

シリーズ8

「流れ」でおさえよう！

今回は、日本の歴史上初めての幕府が創設された鎌倉時代を取り上げます。

とは言っても、簡単に鎌倉幕府ができたわけではありませんでした。いわゆる「源平の争乱」で平氏を破らなければなりません。また、幕府の組織は平氏と戦いながら徐々にできあがっていききましたね。

さらに、源頼朝が築き上げた幕府も、実権は北条氏へと移っていきます。北条氏は執権として権力を握り、また蒙古襲来の頃からはさらに拡大した権力を持ち、なかでも北条氏の家督を持つ得宗が強大な力を持っていました。

しかし、得宗専制政治に反対・反発する御家人たちが増加していき、求心力を失います。

それでは、鎌倉時代をみていきましょう。

第4回 鎌倉時代

＜源平の争乱＝治承・寿永の乱の動き＞

以仁王の令旨 → 源頼政の挙兵 → 石橋山の戦い → 富士川の戦い

1180年4月

1180年5月

1180年8月

1180年10月

→ 倶利伽羅峠の戦い → 宇治川の戦い → 一ノ谷の戦い

1183年5月

1184年1月

1184年2月

→ 屋島の戦い → 壇ノ浦の戦い

1185年2月

1185年3月

1179年11月に平清盛が後白河法皇を幽閉し、翌年に安徳天皇を即位させて清盛の独裁が始まります。貴族や大寺院のなかには、平氏の専制政治に対する不満が噴出してきます。

この情勢を見た後白河法皇の皇子**以仁王**は平氏追討の令旨を発します。

まず、以仁王を奉じて源頼政が挙兵しますが、敗死してしまいます。次に、令旨を受け取った**源頼朝**は伊豆で挙兵しますが、大庭景親に破れ安房に逃れます。その後、鎌倉に拠点を置いた頼朝は平維盛軍を富士川で撃退します。

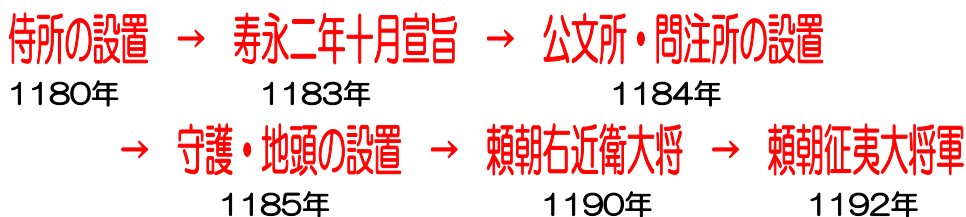
平氏は福原に遷都したものの京都に戻したり、棟梁の清盛が急死したり、また西国の飢饉などで平氏の基盤は弱体化してしまいます。

木曾谷の**源義仲**が砺波山の戦い（倶利伽羅峠の戦い）で平氏を打ち破り京に入ると、平氏は「都落ち」します。しかし、後白河法皇との関係が悪くなり、頼朝の命を受けた**源義経**が源義仲を討つことになりました。

さらに、源範頼・義経らが福原の一ノ谷に陣を構えた平氏を攻撃し、平氏は敗走します。1年後、義経は屋島にいる平氏を背後から襲撃し敗走させ、ついに、1185年3月、壇ノ浦で源平最後の戦いが行われ、平氏は滅亡しました。また、清盛の孫**安徳天皇**は入水し、亡くなります。

しかし、その後、頼朝の支配権の強化を恐れた**後白河法皇**が義経に頼朝追討を命じると、頼朝は軍勢を京都に送って、諸国に守護を、荘園や公領に地頭を任命する権利を獲得することに成功します。

<鎌倉幕府の成立経過>



富士川の合戦で平氏に勝利した源頼朝は鎌倉に拠点を置き、御家人を統制する侍所を設置して別当に**和田義盛**を任じます。1183年には後白河法皇から**東海・東山両道の東国の支配権**の承認を得ます。翌年には一般政務や財政事務をつかさどる公文所（のちに政所となる）と裁判事務を担当する問注所を設置し、公文所別当に**大江広元**を、問注所執事には**三善康信**を任命しました。和田義盛は御家人でしたが、大江広元や三善康信は京都の貴族でしたよ。

鎌倉時代初期に設置された3つの組織については、役割の違いはもちろんのこと、初代の別当や執事に就任した人物の名前をおさえてくださいね。

平氏滅亡後の1185年には、後白河法皇に迫って、諸国に**守護**を、荘園や公領に**地頭**を任命する権利や兵糧米の徴収権を獲得します。1190年には上洛して権大納言、右近衛大将に任じられ、さらに、1192年、後白河法皇の死後に念願の征夷大將軍となります。

＜鎌倉幕府の將軍の流れ＞

源家將軍 → 藤原將軍（摂家將軍） → 親王將軍（皇族將軍・宮將軍）

鎌倉時代の將軍は全部で何人でしたっけ？

そうです、**9人**でしたよ。**源家將軍が3人、藤原將軍が2人、親王將軍が4人**です。源家將軍3人は完璧に、藤原將軍と親王將軍は最初の人物をおさえてくださいね。

源頼朝が亡くなったあと、子の**頼家**が將軍になりましたが、暴政を行ったために母親の北条政子の父である北条時政が、頼家を廃して弟の実朝を3代將軍にたて、頼家は幽閉されたのちに暗殺されてしまいます。さらに、**実朝**が頼家の遺児である公暁に暗殺されてしまう事件も起きます。こうして源家將軍は3代で滅びてしまいました。

北条時政の子義時は、実朝の死後皇族から將軍を招こうとしましたが、上皇に拒否されてしまいます。そのため、頼朝の遠縁にあたる摂関家出身の**藤原頼経**を4代將軍に迎えます（3代執権北条泰時のときになります）。5代將軍は頼経の子頼嗣で、この2代を「摂家將軍」「藤原將軍」と呼びましたね。

5代執権北条時頼の時、頼嗣の後継者として後嵯峨上皇の皇子**宗尊親王**を第6代將軍として迎えます。これ以後の4代を「親王將軍」「皇族將軍」「宮將軍」などと呼びました。

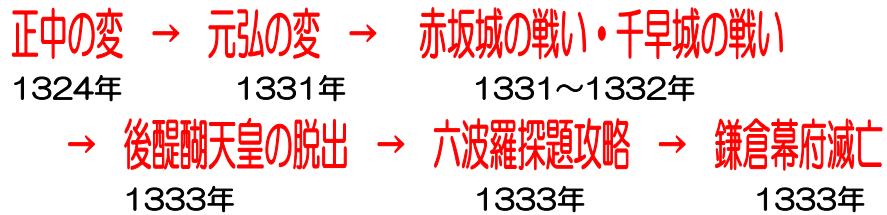
＜北条氏による他氏排斥事件の推移＞

梶原景時の乱 → 比企能員の乱 → 和田義盛の乱
1200年 1203年 1213年
→ 宝治合戦 → 霜月騒動 → 平禅門の乱
1247年 1285年 1293年

源頼朝の側近であった梶原景時らが、頼朝の死後に討伐されます。その後、**北条時政**は2代將軍源頼家の後見人である比企能員を滅ぼし（さらに頼家を伊豆の修禅寺に幽閉して、1204年に暗殺し）ます。1213年、政所の別当であった**北条義時**は侍所の別当である和田義盛を滅ぼして、政所と侍所の別当を兼ね「執権」としての地位を確立します。

第5代執権**北条時頼**は1247年に三浦泰村一族を滅ぼし（宝治合戦）て、北条氏の地位を不動のものとしします。第9代執権**北条貞時**（北条時宗の子）の時代、本来の御家人と得宗家の家臣である御内人との対立が激しくなり、1285年には、内管領の**平頼綱**が有力御家人の**安達泰盛**を滅ぼします（霜月騒動）。しかし、貞時は1293年に平頼綱を滅ぼし（平禅門の乱）、幕府の全権を握って得宗専制政治を現出させました。

＜鎌倉幕府滅亡への動き＞



後醍醐天皇が日野資朝・俊基らと倒幕計画を進めますが、計画が漏れて失敗します（正中の変）。その後、後醍醐が再び倒幕計画を進めましたが、失敗します（元弘の変）。その結果、後醍醐天皇は隠岐に配流されてしまいます。そして、持明院統の光厳天皇が即位します。

一方、**楠木正成**が赤坂城の戦いや千早城の戦いにおいてゲリラ戦により幕府軍を打ち破ります。後醍醐天皇は1333年隠岐を脱出します。幕府から派遣された清和源氏の**足利高氏**は丹波で倒幕の旗を揚げ、六波羅探題を陥落させることに成功します。さらに、清和源氏の**新田義貞**が上野で挙兵し鎌倉を攻略して**北条高時**らを滅ぼし、ここに約150年続いた鎌倉幕府は滅亡します。